

平成 20 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 19 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	12210160	
事務事業名	森林病害虫等防除事業	
予算書の事業名	4.森林病害虫等防除事業	
事業期間	開始年度	平成9年度
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
		5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input checked="" type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	03040100
部名等	産業経済部	
課名等	みどり保全課	
係名等	自然保護係	
記入者氏名	大家 敏志	
電話番号	0765-23-1036	

政策体系上の位置付け	コード2	411012
政策の柱	第4章 自然と共生する魅力あるまち	
政策名	第1節 自然環境と調和したまちづくり	
施策名	1. 自然環境の保全	
区分	自然環境	
基本事業名	野生生物との共生の推進	

予算科目	コード3	001060303
会計	一般会計	
款	6. 農林水産業費	
項	3. 林業費	
目	3. 造林事業費	

◆事業目的・概要(どのような事業か)	単位	実績		計画				
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度		
県内唯一の「航行目標保安林」として指定され、魚津市の歴史的価値を有する天神山において、松林の保全活動を実施している。また、近年被害が拡大している「カシノナガキクイムシ」について、被害木の伐倒駆除を実施している。								
対象 (この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 天神山の松林 カシノナガキクイムシによる被害を受けたナラ類	対象指標	① 魚津市松くい虫被害対策自主事業計画が対象とする松(天神山)	戸	193	193	193	193	193
		② カシノナガキクイムシ被害木	m3	281	830	900	700	500
		③						
手段 <平成19年度の主な活動内容> 天神山の松林における松くい虫の防除(薬剤樹幹注入) 処理立木17本 カシノナガキクイムシ被害木の伐倒駆除 処理立木54本 *平成20年度の変更点 なし	活動指標	① 処理立木(松)	回	11	17	20	20	20
		② 処理立木(カシノナガキクイムシ被害木)	本	33	54	80	80	80
		③						
意図 (この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 松くい虫については、被害を受けた天神山において、被害の程度を終息型の微害とすることを目的とする。カシノナガキクイムシについては、森林公園等で景観の保持が必要な森林や枯損木が新たな山地災害の誘引となる恐れがある森林などにおいて、被害の軽減を図る。	成果指標	① 被害本数の割合(松)	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		② 被害本数の前年度比(カシノナガキクイムシ)	%	0.00	295.00	108.00	78.00	71.00
		③						
その結果 <施策の目指すすがた> 森林の健全な育成を図り、良好な生態系が維持されること。		↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ(何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 天神山の松くい虫被害の発生年度は不明。平成9年度作成の富山県松くい虫被害対策事業推進計画(平成13年度までの5ヶ年計画)に記載があることから、事業が現在の形になったのはこの頃からと推測される。 カシノナガキクイムシについては、魚津市は平成17年に始めて被害が確認(県内で確認されたのは平成14年度福光町)されており、同年から事業を開始している。	財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	416	672	1,494	1,200	1,200	
		(2)地方債 (千円)	0	0	0	0	0	
		(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0	0	
		(4)一般財源 (千円)	354	407	500	400	400	
		A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	770	1,079	1,994	1,600	1,600	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 松くい虫については、平成10年度までに被害木を伐倒撤出しており、それ以降は予防措置として薬剤樹幹注入(薬効4年間)を実施している。 カシノナガキクイムシについては奥山への被害拡大が見られており、今後、森林や野生生物の生態系に多大な影響を及ぼすものと推測される。		①事務事業に携わる正規職員数 (人)	1	2	2	2	2	
		②事務事業の年間所要時間 (時間)	150	180	180	180	180	
		B. 人件費(②×人件費単価/1,000) (千円)	617	722	722	722	722	
		事務事業に係る総費用(A+B) (千円)	1,387	1,801	2,716	2,322	2,322	
		(参考)人件費単価 (円@時間)	4,110	4,010	4,010	4,010	4,010	
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質などを記入) 議会から、「松くい虫、カシノナガキクイムシなどの被害防止対策強化に努められたい」との意見が出されている。	◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 平成19年度の魚津農地林務事務所管内の被害木 2560本						
	<input checked="" type="radio"/> 把握している							
	<input type="radio"/> 把握していない							

平成 20 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 19 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度(事務事業の施策の目指すがたに対する必要性・貢献度とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度小 <input type="radio"/> 直結しない	説明 一旦発生した病虫害から森林を保全するためには、人為的に防除を行うことが即効性の観点から最も有効であると考えられる。
2. 市の関与の妥当性(民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間(市民・企業等)によるサービスの実施が不可能(又は困難)なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地(現状の【対象】と【意図】は適切か、また、どのように見直す余地があるか説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地(成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 松くい虫については被害が終息しており、予防的措置として継続していく必要がある。カシノナガキクイムシについては被害が拡大しているため、被害木の伐倒駆除のみではなく、被害木周辺の予防的措置を行うことが望ましい。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無(どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地(手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 松くい虫については、予防的措置を講じているものなので、事業費の削減余地はない。カシノナガキクイムシについては、コストが少ない防除方法を富山県林業試験場において検討が行われている。
7. 人件費の削減の余地(今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 現状で概ね適正であると考えられる。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地(過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし	説明 病虫害から森林を保全するためには、受益者負担の余地なし。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準(県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 受益者負担なし

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ(この事務事業にどれくらいニーズがあるか)	
<input checked="" type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input checked="" type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低いが、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括

① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり

(2) 今後の事務事業の方向性

<input type="radio"/> 現状のまま(又は計画どおり)継続実施 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	<input type="text" value="年度"/> <input type="text" value="年度"/>
--	--

他の事務事業と統合又は連携
 目的見直し
 事務事業のやり方改善

★ 改革・改善案(いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度(平成21年度)	被害拡大防止のため、低コストで迅速な防除方法を考える必要がある。 コストの方向性 維持
	中・長期的(3~5年間)	枯死木の対処と、後継樹の生育確認 成果の方向性 向上

★ 課長総括評価(一次評価)

年々被害が拡大しているが、全部の被害木処理は無理と思われる。 建物や交通に危険と思われる箇所を優先に現状維持の事業として今後も取組みたい。	二次評価の要否
	不要